

活氣の精神

新春二〇一二年

昨年は、ボランティアから始まって、学習・部活動・生徒会活動・委員会活動等、みなさんが全員で本当によく頑張った一年でした。そして今年、新たな目標に向けて、すでに着実な歩みがスタートしています。

遠野の冬、きりきりと星々を凍らせる寒気の中で、樹木は、固い樹皮をまとった幹のどこか奥深い秘密の隠し場所に小さな生命の火を守り続けています。吹雪の渦の中に立っていても、重い雪に揺さぶられても、彼らはその火を絶やさずことなく、枝先にもうかすかな芽の準備をしています。雪の野では、一年の生存の痛みに色を奪われた枯れ草が内から光を発していきます。黄昏時、消えゆく生命の灯りをうつすら点しながら、ぼろぼろの葎が風になびき、枯れた野菊の塊が寄り添っていきます。しかし彼らもまた次代の準備をすすんで終えているのです。

一つ一つが、よく見るととても小さな仏像にどこか似ていて、生命の創造を司るものの存在を信じたくなるような情景であるはずで、す。そうして、あつというまに葉や草が無数の浅緑色の花のように山々を覆って、陽光にきらめく南風の季節がやってくるのです。

震災と原発事故の後遺症は深いまま、被災の痛みは癒えませんが、多くの方々の苦難は続いていきます。その痛みの中に思いを寄せ、出来る限りの支援の配慮を私達はしていかねければなりません。一方ではまた、暗澹(あんたん)たる予測ばかりに振り回されず、希望を持って自分の道を進んで行かなければならぬのです。

「危機」という言葉は、在り続ける時代においても多くなると言われています。多く

校長室だより
第九号
平成二十四年
一月二十六日
文責 和山博人
ホームページ掲載
中写真力は
ライです

方向に向かうのだと信じます。そうしてそこには若く新しい発想と行動力が大きく



陸上部 本校グラウンド

な役割を果たしていくという

遠高生は、昔も今も、幅広い分野で懸命に努力を続け、活躍してきました。それは、進取の気風と伝統の尊

葛藤の歴史が、歩みが見えても、それも人類は賢明な

重の併存(へいぞん)といえ、一見相反するようにみえて、実は創造や活力のたの根幹となる普遍的な文化を有する遠野という地域に、みなさんが育まれているというところもあると思

今年もまた、己の長所を知らず、己の弱く場所を得るために着実な努力を続けてい

また、学習や部活動その他、様々な分野における取り組みは、結局は、一人一人の人間にとつて最大の謎である、「自分は何物か」

きること、それが、探求することにつながる。意味で、日々こつこつと努力するとともに、思い切っているいるな

遠高のすばい歴史—展示品の整理進む—

「師弟一如」—生徒・教員が互いに成長できるよう、本年も頑張りましょう。

今年度、百十周年を迎えて、これまで物置や各部の活動場所・同窓室に散在していた、先輩方のトロフィーや賞状の整理・展示が進んでいます。

の写真や盾他、野球部の春夏の甲子園出場の写真他です。他にも以前から展示している各部の全国や県での活躍の賞状他記念品があります。



弓道部の国体・東北大会写真他

